

平成30年度（2018年度）第1回吹田市立男女共同参画センター運営審議会議事録

1 日時 平成30年8月29日（水）午後3時00分～午後5時00分

2 場所 吹田市立男女共同参画センター 2階第1会議室

3 出席者 <審議会委員>

(出席者12名)

浅芽委員、有澤委員、上田委員、大下委員、奥村委員、金子委員、

坂手委員、白江委員、丹波委員、溝上委員、森本委員、藪谷委員

<事務局職員>

横山尚明（人権政策長）、杉公子（市民部男女共同参画室室長）、畑澤由佳（男女共同参画センター所長）、柴野勝俊（男女共同参画室参事）、吉岡宏一郎（男女共同参画センター所長代理）、中谷美樹（男女共同参画センター主査）、和田亜由美（男女共同参画センター主査）、古澤千恵（男女共同参画センター係員）

4 傍聴者 0名

5 議題 (1) 平成29年度男女共同参画センターの運営状況について

(2) 平成30年度予算及び事業計画について

(3) その他

(委嘱状交付)

(人権政策長あいさつ)

(委員自己紹介)

(事務局職員紹介)

会 長：それでは次第のとおり進めさせていただきます。まず、案件の（１）平成２９年度男女共同参画センターの運営状況について。及び案件の（２）平成３０年度予算及び事業計画について。一括して事務局から説明を受けます。

事務局：（資料に基づき説明）

会 長：ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、御質問等がございましたらお受けしたいと思います。

委 員：アンガーマネジメント講座について、人気講座であったようですが、どのような状況であったかお聞きします。

事務局：昨年度のアンガーマネジメント講座は、夏に親子向け、秋に就労者向けを開催しました。どちらも定員を超える応募をいただきまして抽選となりました。特に就労者向けは新規の方が多く、昨年度から、イオン様にちらしを配架することが可能になり、ちらしを御覧になられて、申し込みされた方もあったようでよかったですと思います。アンガーマネジメントは理論と実践で身に付くものであり連続講座で開催しました。家庭や職場等の悩みを受講者同士でディスカッションしていただきました。また、希望者のみですが、連続講座に加えて、フォローの講座も後日合わせて実施しました。今年度も同様の講座を開催いたします。

委 員：アンガーマネジメントは大事で、DVの予防につながると思います。すいたストップDVステーションへの相談は敷居が高くなると感じます。１歳になるまでの子育てはイライラもたまりやすいものです。男女共同参画センター（以下：センター）のちらしはわかりやすいので、１歳児健診の資料にいっしょに入れてもらうとか子供の集まる場所で周知すれば、男性が読む機会にもつながり、センターを周知するのに効果的だと思います。

事務局：親子向けアンガーマネジメント講座は昨年度に続き、今年度も開催しました。夏休みは小学生が家にいるため、怒る機会が増える親を何とかしたいと取り組んでいますが、もう少し年齢層の低い子供をお持ちの親を対象にした講座もできたら考えていきたいと思っています。

委 員：働く人のアンガーマネジメント講座は、夜間にされて男性の参加が３分の１あったようですが、様々なことが仕事では起こりますので、有効なスキルを身に付けられたと思います。フォローアップは習ったことを実践する時間が必要であったため、１か月後に実施されたのですか。講座だけで終わってしまうと内容を忘れてしまうこともあるので、有効だと思いました。

事務局：ありがとうございます。実際に実践した後の講座はより充実したものになったと思います。

委 員：業務概要の３１、３２ページのシングルマザーの幸せ家計術とひとり親の子育てひろばについてお聞きします。シングルマザーやファザーは多いので、時宜を得た企画だと思

ます。シングルマザーとひとり親は分けておられるのは、シングルマザーは女性向けで、ひとり親は男女問わずひとり親ということで分けておられるのでしょうか。連続講座にしないで、もちろん講師の方の専門も違うと思いますが、いっしょに5回シリーズでできるんじゃないかと思います。タイトルの整合性がわからなくなるかもしれませんが、とてもよい企画だと思います。ひとり親の子育てひろばの出席者が少ないので、女性が中心だと思いますが、もったいない気が少しします。シングルマザーの幸せ家計術は、10人以上20人ほど来られて、経済的で実務的な内容なので、ニーズも強かったことがあるのかもしれませんが、連続講座にして、出席者に広く出ていただくという選択はなかったのでしょうか。もったいない気がします。

事務局：ひとり親よりシングルマザーの方のほうが経済的に苦しい方が多いことを考慮して、家計にスポットを当てるときは女性だけの方がよいとシングルマザー対象で企画しました。また、ひとり親の方は、親子のコミュニケーションをテーマにしております。ここ3年くらい開催しています。PRが不足したかもしれませんので、違う切り口も考えていこうと思います。

委員：子育ての悩みは深刻なものもありますが、ニーズはあるように思います。参加者が少ないのはどうしてなのでしょう。保険とか住宅とかファイナンシャルプランナーの講師に専門的なことを聴きたいとかニーズはあると思います。せっかく企画されたのに、残念に思いました。

事務局：PRの仕方が対象者に思いが伝わらなかったことは反省しています。

委員：業務概要の40ページを見せていただくと、Wリボンプロジェクトということで、女性の悩みワンストップ・ミニ相談会ということで、センターが工夫されていることは、実によくわかります。振り返りで書いてありますが、集客が大変だったと書かれていて、これももったいないと思います。水曜日が悪かったのか土曜日だったらよかったのかということもあります。8人の専門の相談員の方をそろえておられて、それぞれ潜在的なニーズはあると思いますが、なかなか足を運んでもらえないのはもったいないと思います。何が原因だったのでしょうか。会場を変えたりしてみるのもありますが、カウンターに座っているところに行くのが行きにくいので、センターが施設的にはよいと思います。ミニ相談会は初めての開催ですか。

事務局：女性の悩みワンストップ・ミニ相談会は2回目です。前年度は土曜日にしましたが、参加者が少なく、女性は平日の方が来られやすいかもと水曜日にしてみました。来られた方は1か所ではなく、ワンストップですから、2つ、3つくらいかけ持ちで相談され、満足度は高いですが、人数的には少なかったと思います。相談会は定員15人で、元々は相談者が何か所も回っていただくのを想定し開始しました。今回、参加者は12人でしたので、全部まわっていただけたので、やった意味はあるかと思っています。これからたくさんの方に来ていただければと思います。

委員：主催講座の一覧表の中で、申込みが定員の2倍いってるものと定員を割っているものと特徴を振り分けてみてみると、親子の料理は2倍以上で目につきます。逆に定員を割っているものはひとり親の企画をいくつか目にします。ひとり親に行き届かない広報の特徴があるのかなと思います。もしくは、個人情報とか今難しいですが、それを逆手にとって、何かアプローチ的にダイレクトに行く方法があるのかなということも少し考えたりします。平成30年8月5日の親子料理講座は、フェイスブック上では、定員の5倍の申込があったそうですが、私の島本町での料理の講座は定員を超え、再度募集でも超えてという状況が最近増えています。それにしても定員の5倍は多く、昨年度との広報活動の違いを教えてください。

事務局：親子料理講座は、市報の施設の催しといういつも掲載される箇所ではなく、夏休みの特集ということで巻頭に掲載されました。市報の巻頭に掲載するかどうかは、センターでは決定することはできず、広報課が決定しますが、掲載箇所がいつもと異なった効果は大きかったと思います。

委員：市報の巻頭に掲載されたことで成果が5倍になったということですね。先ほど少し触れましたが、島本町では、各幼稚園保育園小学校等に配布されたもので家庭で情報を共有しています。3万人の都市ができて、36万人の都市は無理というロジックになるのですか。

事務局：講座内容によっては、保育園、幼稚園にチラシ等でPRすることもあります。講座の申込者が増えたというのはあまりないです。どの講座も圧倒的に市報での集客が多いです。

委員：ピンポイントにひとり親に周知する方法は何か考えられないですか。

事務局：この夏の講座は、ひとり親関係団体のメールマガジンやホームページを活用しましたが、それを見て来られた方はありませんでした。本当に難しいと感じます。他に、本庁の児童扶養手当の窓口である子育て給付課にもちらしを配布しました。ただし、年に1回の児童扶養手当の現況手当の申請時期と重ならず、集客につながりませんでした。

委員：それだけの動きをされていて、大変だとわかりました。

会長：主催講座は73講座、延べ138回開催され、すごく熱心に取り組まれていると思います。

委員：ちらしについて、昨年も申し上げましたが、センターのちらしは、ジェンダーバイアスの観点でみる必要があると思います。「子供のことを知ってる？親が知らないイマドキの恋愛と友人関係」という講座のちらしですが、文面は問題ないですが、お母さんの絵が載っています。違和感はないですが、お父さんは講座に参加していいのかなということもあるかもしれません。私は弁護士会の男女共同参画の委員会に入っていて、弁護士は男性のイメージがあって、ちらしで女性、若者、年配の方と並べてみたりしました。ちらしで苦労したことがあったので、シングルマザー対象の講座なら、お母さんの絵だけでいいか

もしれませんが、お母さんお父さんの両方対象の講座なら、お父さんをちらしの片隅にでも入れるという観点でみていただければと思います。

事務局：「子供のことを知ってる？」は平日の講座で対象は働いていないお母さんにしました。昨年、御指摘いただき、今年度の「パパと子供の夏休み料理」教室では、働いていないお母さんでも、お父さんと子供が参加している間、お母さんはゆっくりしたいという意見がスタッフからもあり、働いているお母さんだけというしぼりを外したことも定員の5倍の申込につながったと思います。御指摘いただいたことは、今後、注意していきますので、よろしくをお願いします。

委員：業務概要52ページの情報収集提供事業について、お尋ねします。他館返却冊数とは何ですか。

事務局：情報ライブラリーの本はセンターでしか借りられませんが、返却は市立図書館でも返却でき、市立図書館に返却された冊数です。

委員：私も見せていただきましたが、センターの本は男女共同参画について専門的な本が多くあります。センターの本は市立図書館でも検索できますか。

事務局：できます。

委員：市立図書館とクロスオーバーでなっていますか。検索でもセンターの資料はあがってきますか。

事務局：市立図書館と男女共同参画センターの両方の資料が1回で検索できます。

委員：資料5の傾聴カフェについてお尋ねします。前からやっておられますか。

事務局：傾聴カフェは平成29年度から実施しています。元々はDV被害者の訪問支援だったものをアレンジしたもので好評をいただいています。

委員：業務概要はホームページで見ることができますか。よい講座をたくさんやっておられますが、また、実施された講座の検索はできますか。感想が読めたりできますか。

事務局：業務概要はホームページに掲載しています。

委員：毎年、同じような講座をされていますが、毎年、同じ人が受講されている訳ではなく、人は変わっていると思います。講座を受けてみようかと思わせる一つとして、センターの講座を検索したら、昨年度の内容や集客率がわかったりするシステムがあればと思います。視察で訪れた京都の施設の方もセンターの講座の多さに驚かれていました。私はセンターに関係しているの、たくさんの講座をされているのは知っていますが、一般の方は知ら

ない方も多いと思いますので、若い人に知ってもらうため、インターネットを上手に使えるかと思ったりします。

委員：若い人たちに上手にどうにかしてということで、公的な立場から、フェイスブックのイベントページを作製というのは問題がありますか。

いま、アプリで、地域でしているイベントが細かく見ることができます。個人一人でイベントを立ち上げて誰にでもみられるような形になっています。公的なイベントを組み込むのであれば、若い人たちの目に触れる回数は増えると私は思っています。公的な観点から可能かどうかを調べてみる価値はあると思います。

事務局：調べさせていただきます。

委員：参画スタッフには、若い方やパソコンに精通されている方もいらっしゃると思います。その中からフェイスブック担当とか人にわかりやすく伝えるにはどうしたらよいかとか考えていただくのもいいかと思えます。別件ですが、視察で京都に行きました。「女性からみた防災マップ」という冊子を作製されていました。先日の地震のときも、何をしたらよいかわからなかった。例えば、水がどこかでもらえるという情報も、ガラケーではどうしようもない。高齢者の年代になればそういう人が多いと思います。避難所もどこにいけばよいかわからない等困っていることはいっぱいあると思います。若い参画スタッフの方にテーマを与えて、様々なことをやっていただきたいと思えます。

委員：震災前に危機管理室に小さいお子様がいらっしゃる方を対象に防災関連講座をお願いしました。持ち出す物を実際に持ってきていただき、子供を守る姿勢とか細かいことまで教えていただき好評でした。その後、震災があり、利用者の方も講座が役立ったという声がありました。水が止まったときはトイレが一番困ります。避難所は水分をとることを言われていますが、トイレで性被害にあったりすることもあり、トイレが怖いと言われています。水分を控え体調を崩してお亡くなりになる方が多いと聞きます。災害時、もしトイレが自宅でできる状態であれば、予め用意した猫用トイレの砂とビニール袋を活用すれば、水が流せなくてもトイレができます。市は災害から1週間以内にごみ回収をめざしていると聞きしましたので、1週間分くらいなら回収まで置いておけるでしょうと教えていただき勉強になりました。パンフレットとかもいただきました。危機管理室が来ていただけるのも知りませんでした。講座としていいと思います。

委員：危機管理室は防災について熱心で各自治会に出張しますと聞いています。

委員：私たちは小さい子供を持つ人を対象にした防災講座でしたが、高齢者の方向けとかの話も聞かせてもらえるとします。

委員：先ほど話にありました京都の施設の防災冊子は、女性の視点で作られており、内容がよく、委員の皆様にも紹介したいものでした。市も作成され、様々な施設に置いてあれば手に取れることもできると思います。

委員：講座のPRは大事だと思います。ちらしは1枚1講座で親しみやすいと思いますが、裏面のスペースがもったいないと思います。1枚1講座は整理はしやすいですが、締切等はあるにせよ別の講座のタイトルと日にちだけでも載せれば、関心があれば問い合わせがあったり、発信の方法を多様化したりしてはどうでしょうか。センターは場所がわかりにくいので、センターでイベントをやることで、あらゆる機会に目に触れることにつながります。多角的にお越しいただけるPRや仕掛けをする努力をもっとされてもよいと思います。一般の方は男女共同参画への意識はまだこれからだと思います。広く浅く知らせるPRの仕方と並行して考えていただければと思います。

会長：いろいろな提案やPRをもっとするべき等、委員の皆様から様々な意見をいただきました。できることからやっていただけたらと思います。防災講座は人が集まりそうで、生活に役立つ情報が得られると助かりますし、センターの知名度が上がることも付随してくると考えます。センターの防災講座やイベントは何かできるのではないかと思います。話は変わりますが、DV防止対策事業について、市内の中学校を回っていくとお聞きしていますが、中学校の開催回数は確実に増加していますか。

事務局：年度によって違います。道ができにくいと感じています。PTA様の協力もいただければと思います。

委員：PTAにつきましては、今年度は防災のことを知りたいという声が多くなっています。PTAの生活部会は秋にPanasonic Stadium Suitaの備蓄倉庫の見学を企画しています。防災は命に関わることでみなさん興味をもっておられます。

委員：センターに地震の影響はありましたか。

事務局：エレベータが停止したこととガスの供給が停止し冷房が使用できなくなったため、6月18日と19日の2日間、臨時休館しました。施設点検をしましたが、建物や備品は大きな被害はありませんでした。

委員：センターは避難場所ですか。

事務局：はい、そうです。

委員：情報ライブラリーの貸出件数がなかなか増えないのがもったいないと感じます。もし、図書館のホームページに、センターの男女の今話題の本とかの紹介が何冊かでも載れば、見られた方がこんな本があるなら行ってみようかとなると思います。どんな本があるかわかれば、たくさんは載せられないけど、ソフィアで紹介するような本でしたら、原稿も一つで済む訳ですから、今話題の本や今知ってほしい本を載せていただけたら、センターにおもしろい本があるなど行こうとなると思います。先ほどの傾聴カフェは有効だと思います。ミニ相談会よりカフェみたいな感じで、「相談でもできますよ」とか「専門家がいいますよ」

と来やすい雰囲気になれば、もしかしたら、来てくれるかもしれません。昨年もお聞きしましたが、小さいブースがたくさんあって、いろんな人が見ている雰囲気でお話ができますかと質問した記憶があります。みなさん話をしておられたと言っておられました。テーブルにお茶を用意してみたり、ワンドリンク制にしてもよいと思います。「何でもここに来て話してもいいんだ」と気軽に参加できる雰囲気で開催するのもいいと少し感じました。また、ひとり親の子育てひろばについて、ひとり親の方は働いてクタクタになって、相談に行くのは本当にしんどいと思います。先ほどの人数が少なかった講座で、過去に御自身がDV被害にあった人があれば、平日のなかなか行きにくい時間帯ならば、カフェみたいなものに紛らわせてしまうとか、オープンだけど、クローズな話ができることを守ってあげて、傾聴カフェを実施できればと思いますので、アイデアの一つとしてお伝えしておきます。

会 長：内容があって人がたくさん集まってよかったというものとあんなにたくさん人が集まっているところには行けないと悩みを抱えている人にとっては、ひっそりと存在している居場所があればよいと思います。バランスは難しいと思います。

委 員：きっかけとして、来られた方の相談をちゃんと聞けますということができれば、相談につなげることができると思います。

委 員：新学期が始まると、自殺する子があるとニュースで見ました。LINEで気軽に相談できるとニュースで言っていた気がします。わざわざセンターに行くのではなく、専門の方が文字を打ち込んで、文字で返してくれるお手軽に感じると言いますか、言い方が悪いかもしれませんが、LINEなら気楽に相談できるのかなと思いました。

委 員：小学校や子供のお祭り等でチャイルドラインのカードを配る活動を地道に活動しています。小学校中学校等で配布させてもらっています。新学期が始まる9月1日と2日は、自殺する子が多いので、午後11時までキャンペーンで電話を受けています。チャイルドラインは日本に来てまだ20年です。一人でも多くの方に聞いてもらいたい。センターでも紹介させていただければと思います。

事務局：Wリボンプロジェクトのときには是非活動していただければと思います。

委 員：今の子供たちの心の悩みは、既に経験をしてしまった人が相談にのると説教をしたり、親目線になりがちです。相談しやすい若い世代の子が聞くのがよいと思います。子供たちはSNSをよく活用しますので、電話はハードルが高く、気軽に使えるのはLINEだと思いますので、LINEを上手に活用できたら、若い世代の子たちの悩みを救えると思います。

委 員：電話チャイルドラインは生の声を聴いて寄り添って、説教やアドバイスはしません。子供の気持ちを聴かせてもらい、いっしょに考える。子供たちの力を信じて、子供たちの人権を大切にして、子供たちの言いたいこと、言えないことを聴かせてもらう。もしも必要な



ときは必要な施設に私たちが電話するのではなく、本人の力を信じて、「もし、本当にあなたが助けてほしいなら、施設の連絡先をお伝えすることができるけど」というところまでしかできません。という活動です。

委員：SNSは便利で早いですが、相談は文字だけでは、微妙なニュアンスはわからないものです。子供に力があるといっても、世の中は知らないことだらけです。LINEで10代の子供が「死にたい」と発信すれば、「いっしょに死のうか」とすぐに返信があると聞きます。恐ろしいことです。会話する言葉が大切だと感じますし、リアルが本当に大事だと思います。パパ活等があって、写真を撮ったり、大人はサイトで売ったり滅茶苦茶です。お小遣いが簡単に入るので、10代は本当に危険で、10代はメディアのことを勉強してほしいし、親子でルールを決めるのも大事ですが、親が実態を知らないケースが多くあります。大人が踏ん張っていかないといけないとすごく思います。子供を守るとはとても大事なことです。子供は生きることを真剣に考えないといけないし、危ないことはいっぱいあることも知らないといけない。男女共同参画のDVと同じような感じで、子供たちに今の情報をちゃんと伝えることは大事だと思います。

委員：子供が家出をして、知らないおじさんは何日間は優しいけど、かわいいからと写真を撮られ、知らないうちに名前を書かされ、被害にあい、写真を世界中にまかれて、慌てても、「あなたは名前を書いている」と親にも相談できずにいる。どうしていいかわからない状態になる。一人で抱えなくていいよとか言ったりします。

委員：中学校の出前講座で内容を組み込むことは可能でしょうか。

事務局：組み込んでおります。

委員：組み込んでいいるなら、中学校の先生方もそれなら是非となり、SNSの危険性等を重視したプレゼンをすれば、中学生はスマホを初めて持ったりする重要な時期ですし、デートDVだけではなく、先ほど話があった危険性についても詳しく説明しますとなれば、中学校も手を挙げられると思います。

委員：私も同じ感想を持ちました。デートDVはされていますが、拡張版としてSNSの怖さを周知していただけたらと思います。NHKで失踪社会という番組を観ました。中学生や高校生の特に女の子の失踪者が激増しています。親や学校と上手くいかないからと、SNSで「今夜泊めてほしい」と送信すれば、5分ほどで10人くらい返信があるそうです。子供たちは実際泊まりに行ってしまうそうです。1か月、半年、家出という感じですが、今の子供たちは、リアルとバーチャルの区別がつかないようです。私たちの古い感覚だったら、知らない男、特に社会人といっしょに暮らす。女の子も違和感なしに泊まる。場合によっては、2、3人の女の子が泊まっているケースもある。泊まっているのは普通の真面目な女の子で、嫌になったら1か月くらいで家に帰るようです。警察も高校生くらいになると事件性がないと家出となってしまうと、統計をみるとすごい世の中になったと思います。人間関係の希薄さと子供たちに怖いという感覚がないようです。LINEの匿名性の

良さですが、人と話ができる良さや怖さの両方を小学生からちゃんと教育しないと被害が一番あうのは女の子です。教育部門か女性部門かどこが主管として取組をするかはわかりませんが、恋人のDVのキャンペーンができるのであれば、上乘せをして言ってほしいと思います。登美が丘高校のダンス部はSNSのルールを厳しく決めているそうです。高校生だから勉強しなければいけない。芸能界のアクセスとか個人のアクセスとかもてはやされたりするので、部の中でルールを厳しく決めていて、感心してしまいました。小学生から高校生くらいまでは先生や親等、成人がルールとしてしっかり伝えていかなければならない面があります。メディアの問題とかDVの問題とか分けるのではなく、複合して出てきているので、メディアとの関わりが多いので、そういう観点も入れてほしいと思います。可能なら、来年度の講座に入れていただけたらいいと思います。

事務局：今年度、「子供のこと知ってる？」という講座を企画しています。親はいろいろと話は聞くけれど自分の家に関係ないと思っておられます。講師に今、現状がどうなっているのかを話していただこうと思っています。タイトルは集客に配慮し随分考えました。

委員：新しい講座を考えるのは大変だと思いますので、講座にこういう新しい観点も入れてくださいというようにされたら内容が豊かになると思います。私は世代的に子育てしているときに、家庭の電話からPHSになりました。印象に残っているのは子供の交友関係がわからなくなったことです。家庭電話のときはよくかかってくる子がわかり、交友関係があるのかとわかっていました。PHSになって全然わからなくなりました。今はそれが当然になってきています。ツール、現代のIT、一つのリテラシーですかね。「子供のこと知ってる」という要素にもなっていますので、お話を聞いていて、すごく大事なことだと思います。

会長：たくさんの提案や御意見がありました。整理いただき、今後のセンターの活動にいかしていただければと思います。

会長：他に無ければ事務局から次回開催について連絡をお願いします。

事務局：今回は、平成31年2月頃を予定しています。詳細が決まり次第連絡します。

会長：ありがとうございました。では本日の審議会はこれで終了します。

以上